

黒川古文化研究所 第134回展観

# 倭国の遺宝

古墳時代の  
舶来文化

2025

10/18(土) >>> 11/30(日)

【開館時間】 午前 10 時～午後 4 時 (受付は午後 3 時 30 分まで)

【休館日】 月曜日 ただし11月3日(月)11月24日(月)は開館 11月4日(火)11月25日(火)は休館

【入館料】 一般 600 円 大学生以下無料

【後援】 西宮市教育委員会

土日祝は無料シャトルバス運行

阪急苦楽園口駅(ローソン苦楽園口駅前店)から当研究所まで  
定員 9 名のシャトルバスを 30 分毎に往復運行  
往路 10:30～14:30 (最終) / 復路 10:45～16:05 (最終)

(左上) 龍紋透彫帯金具(京都大学総合博物館) (左下) 船載三角縁仏獣鏡(神戸市)  
(右上) 魚佩(羽曳野市教育委員会) (右下) 単龍環頭(大阪府立近つ飛鳥博物館)



公益財団法人

黒川古文化研究所

Kurokawa Institute of Ancient Cultures



〒662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町 14-50

## 開催趣旨

古墳の副葬品は時期ごとに大きな特色があり、前期の銅鏡や腕輪形石製品、中期の鉄製武器・武具と帯金具、後期の装飾付大刀・鈴付馬具・各種の装身具などが代表的なものです。この変化は、中国大陸の動乱や朝鮮半島の三国分立といった国際情勢、そして倭王権がどの地域との交渉を重視していたかによると考えられます。

このうち、中国大陸や朝鮮半島に由来する品は、海外から直接もたらされたもの、渡来した工人によって日本列島で製作されたもの、さらにはそれらをまねて国内の工人が作ったものがあり、その分析によって当時の倭（日本）が舶来文化をどのように受け入れていたかを知ることができます。

本展観では、「銅鏡からみた中国大陸との関係」、「帯金具の展開と東アジア全体を巻き込んだ変化」、「多様化する器物と朝鮮半島重視への転換」の3つに着目し、古墳時代における異文化交流の具体像をひも解きます。

## みどころ

### 1 舶来品からみた古墳時代の国際交流

日本の古墳からは、中国大陸と朝鮮半島との交流を示す遺物が出土します。今回の展示では実物資料を通し、海を渡って来た舶来文化が、古墳時代社会にどのように受け入れられ、変化していったのかを読みときます。

### 2 緻密な彫金をほどこした金属製品

展示品には金・銀を用いた金属製品を多く含み、表面には蹴り彫りなどの細かな彫金がほどこされています。今回の展示のために新たに撮り下ろした高精細画像を用いて、当時の製作者の金工技術に迫ります。

### 3 変容する瑞獣

舶来品は中国に由来する龍や鳳凰などの意匠を持っていますが、これらの瑞獣を知らない古代の朝鮮半島や日本列島では図像が変化しました。器物を越えた紋様の変化に注目することで、古墳時代における「模倣」の実態を示します。

## 開催概要

|       |                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展覧会名  | 第134回展観「倭国の遺宝－古墳時代の舶来文化」                                                                  |
| 会 期   | 2025年10月18日（土）～11月30日（日）（44日間）                                                            |
| 会 場   | 公益財団法人 黒川古文化研究所（〒662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町14－50）                                              |
| 主 催   | 公益財団法人 黒川古文化研究所                                                                           |
| 後 援   | 西宮市教育委員会                                                                                  |
| 入館料   | 一般 600円 大学生以下 無料                                                                          |
| 休館日   | 月曜日 ただし11月3日（月）、11月24日（月）は開館 11月4日（火）、11月25日（火）は休館                                        |
| 公式サイト | <a href="https://www.kurokawa-institute.or.jp/">https://www.kurokawa-institute.or.jp/</a> |

## 展示の構成と主な展示品

黒川古文化研究所の所蔵品を中心に、大阪府立近つ飛鳥博物館・加古川市教育委員会・加古川総合文化センター・関西大学考古学研究室・関西大学博物館・京都大学総合博物館・神戸市・羽曳野市教育委員会（敬称略・五十音順）からの借用品を合わせて展示いたします。

・展示品数 約 80 件

### 第1章 大陸文化の導入と倭—青銅鏡と石製品—

古墳時代の初め、卑弥呼の遣使にともない中国から大量の青銅鏡がもたらされると、その模倣品が日本でも作られるようになります。また、弥生時代以来の南海産の貝を写した石製品は倭独自の発展を遂げました。これらは単なる貴重品ではなく、組織を維持するための重要な「威信財」として倭王権によって差配されていました。

#### 主な展示品



重要文化財

伝奈良県布留出土弓矢形石製品  
(黒川古文化研究所)



腕輪形石製品

(黒川古文化研究所)



神戸市指定文化財

白水瓢塚古墳出土画紋帯求心式神獸鏡  
(神戸市)



神戸市指定文化財

塩田北山東古墳出土三角縁仏獣鏡  
(神戸市)

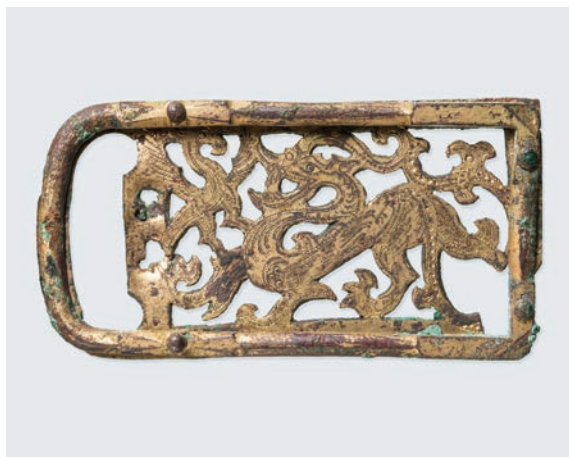
## 第2章 大陸から半島への変化－鉄製武具と帯金具－

古墳時代中期になると、鉄製の武器・武具が大量に副葬されるようになります。これらは朝鮮半島南東部に由来するものであり、この時期に交渉先が大きく変化したことを意味しています。その背景には、当時の中国が遊牧民の侵入によって王朝が乱立する五胡十六国時代であったことが考えられます。ほかにも遼東や朝鮮半島北部などの影響を受けた帯金具がもたらされ、多くの地域との直接的、間接的な交流の様相がうかがえます。

### 主な展示品



盾塚古墳出土三角板衝角付冑  
(関西大学考古学研究室)



伝中国出土龍紋透彫帯金具  
(京都大学総合博物館)



穀塚古墳出土帯金具  
(京都大学総合博物館)



峯ヶ塚古墳出土魚佩  
(羽曳野市教育委員会)

### 第3章 多様化する器物－装身具・装飾付太刀・馬具－

「倭の五王」の遣使の後、南朝の衰退によって交渉先は再び朝鮮半島主体となり、新羅・百済・加耶の各地に由来する器物がもたらされました。渡来人によって装飾付大刀、装飾・鈴付馬具、耳飾や釵子（かんざし）などの装身具といった多様な「飾り」が製作され、次第に日本列島にも定着していきます。

#### 主な展示品



一須賀 WA1 号墳出土単龍環頭  
(大阪府立近つ飛鳥博物館)



獅嚙環頭  
(関西大学博物館)



升田山 15 号墳出土心葉形杏葉・辻金具  
(加古川市教育委員会)



**加古川市指定文化財**  
カンス塚古墳出土垂飾付耳飾  
(加古川市教育委員会)

## 【コラム展示】

古墳時代の遺物のほか、当研究所が所蔵する飛鳥・奈良時代の埴仏・銭範や、幕末～明治に記録された古鏡の拓本など、関連する資料も展示いたします。



伝長門国鑄銭司出土和同開珎銭範  
(黒川古文化研究所)



温古集 (黒川古文化研究所)



方形三尊埴仏  
(黒川古文化研究所)

## 関連イベント

いずれも午後 1:30 ～ 3:00/ 当研究所講演室 (入館者は聴講無料)

### ■特別講座 JSPS 科研費「漢六朝青銅器の総合的研究」成果報告会

10/25 (土) 岡村秀典 (当研究所 所長)

「曹操の鉄騎五千—東アジアにおける重装騎兵の出現」

10/26 (日) 桃崎祐輔氏 (福岡大学 人文学部教授)

「重装騎兵と仏教の時代—中国五胡十六国, 慕容鮮卑三燕の馬具と馬冑・馬甲—」

### ■鑑賞講座

11/1 (土) 伊藤啓介 (当研究所 研究員)

「和同開珎と古代の貨幣経済」

11/15 (土) 川見典久 (当研究所 研究員)

「刀剣が語る古墳時代」

11/22 (土) 馬淵一輝 (当研究所 研究員)

「古墳出土品からみた東アジア交流史」



## 黒川古文化研究所の概要

公益財団法人黒川古文化研究所（1950 年設立）は大阪で証券業を営んだ黒川家が三代にわたって収集した書画、青銅器、鏡鑑、刀剣、貨幣など国宝 2 件、重要文化財 16 件を含む中国・日本の美術・考古・歴史資料約 8500 件（2 万点）を所蔵する研究機関です。紀要や図録などの刊行物、春と秋に開催する展覧によって研究成果を広く公開し、東洋古文化に関する正しい知識の普及という社会的使命を果たすべくつとめています。



外観



展示室

## アクセス

- 阪急バス：阪急夙川駅・JR さくら夙川駅からさくらやまなみバス北部方面ゆきにより「柏堂（かやんどう）町」下車、西へ徒歩 15 ～ 20 分ほど。坂あり。急勾配。途中案内板あり。
- タクシー：阪急夙川駅より約 10 分、JR 芦屋駅北口より約 15 分。
- 無料駐車スペース有り。7 台まで可。

### 土日祝は無料シャトルバス運行！

展覧中の土日祝日は阪急苦楽園口駅前（ローソン苦楽園口駅前店）より無料シャトルバスを往復運行しております。予約なしでご利用いただけます。ただしイベント開催日には満席の可能性がありますのでご了承ください。



#### ■ 無料シャトルバス時刻表（土日祝のみ運行）

| 時 間              | 10 | 11    | 12    | 13    | 14    | 15    | 16 |
|------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| ローソン<br>苦楽園口駅前店発 | 30 | 00 30 | 00 30 | 00 30 | 00 30 |       |    |
| 黒川古文化研究所発        | 45 | 15 45 | 15 45 | 15 45 | 15 45 | 15 40 | 05 |

### 【問い合わせ先】

公益財団法人 黒川古文化研究所 担当：馬淵

〒 662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町 14 - 50

TEL：0798-71-1205 FAX: 0798-73-4099 HP：<https://www.kurokawa-institute.or.jp/>

メールはホームページの「お問い合わせ」からお願いします。

<https://www.kurokawa-institute.or.jp/pages/5/>

# 黒川古文化研究所 第134回展観「倭国の遺宝 古墳時代の舶来文化」

## 広報用使用画像一覧

- ・広報用の画像はこちらをご使用ください。（黒川古文化研究所収蔵品に限定しております。）
- ・画像はHPの「プレスリリース」のページの広報用使用画像よりダウンロードしてご使用ください。
- ・本画像は「倭国の遺宝 古墳時代の舶来文化」（会期：2025年10月18日～11月30日、会場：黒川古文化研究所）の広報目的に限りご利用いただけます。
- ・画像を掲載する際は、必ず展覧会名「倭国の遺宝 古墳時代の舶来文化」および所蔵先「黒川古文化研究所」を明記してください。
- ・画像のトリミング、色調補正は最小限度にとどめてください。
- ・上記以外の目的での使用、再配布、商業利用はご遠慮ください。
- ・画像使用される場合はHPの「お問い合わせ」ページよりご一報ください。



弓矢形・琴柱形石製品  
古墳前期（3世紀後半）



「吾作」画紋帯同向式神獸鏡  
南朝宋（5世紀後半）



単龍環頭  
古墳後期（6世紀半ば）



垂飾付耳飾  
加耶・古墳中期（5世紀半ば）



ポスター



チラシ表



チラシ裏